

中山間地域づくり実践者のつどい

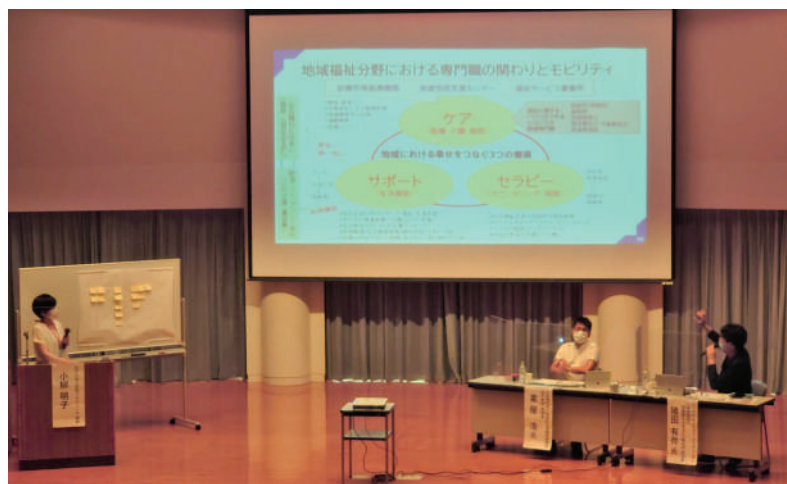
NPO 法人市民プロデュース

753-0074 山口市中央3-6-1-2F

TEL 083-932-4919

FAX 083-932-4929

Email shiminproduce@gmail.com



県内各地から、地域団体、行政、中間支援組織の方など、幅広い皆様にご参加いただき、『中山間地域づくり 実践者のつどい2022』を実施しました。

中山間地域をフィールドとして、「暮らし」に直結する取組を進めておられるお二方にご登壇をいただき、ご自身の実践から紡ぎ出された「実践知」を思う存分共有していただきました。ありがとうございました！

日時：2022年7月31日(日) 13:00～16:00
場所：山口県セミナーパーク

実践紹介

暮らしを支える地域づくり実践

子どもたちが帰りたいと思う里山をつくる ～13世帯で挑む里山再生ストーリー～

栗屋 浩氏 社会福祉法人 岩国市社会福祉協議会由宇支部 支部長

- 「できる」と「できない」を整理する。
- 「自分の不得意は、誰かの得意」。つながることで、新たな価値が生まれる。
- 解決のヒントは日常にあふれている。雑談など、普段からの情報収集を。情報を基につなぐ、コーディネートする。
- 利害で組む。相手の立場に立って考える。ポイントは「一緒にやりたい」という姿勢と、実現したいことが明確であること。
- 地域と関わる時にいちばん大事なことは「地域のチカラを信じる」こと。



いくつになっても“動くを楽しむ”ことができる社会を目指して 地域福祉の観点から、仕組みづくりと寄り添いのあり方を考える

猪田 有弥氏 ローカル・モビリティ・プロデューサー
一般財団法人 西栗倉むらまご研究所 研究員

- 中山間地域では、観光、福祉等の分野ごとのビジネスでは成立しない。モビリティ(移動手段)をテーマに束ねることでレジリエンス=しなやかな強さを得る。
- ヒト・モノが動く=しくみ化×ココロが動く=寄り添い。
- 2人以上での関わりを。関係性が属人化しない・薄く広い関わり=維持・持続コスト低→持続可能な仕組みへ。
- 多様なスキルや価値観を持つ人が増えている中でのコミュニティ、つながりづくり。役割分担と「国語力」。



トークセッション

実践からひもとく 地域がチカラを発揮できる“土台”とは

実践紹介のフィードバック ～お二人の実践に見る共通項より～

◆「手段」を上手に使う

- 目の前のやること＝「手段」の先にある「目的」について共通認識・共通理解を得る。
- 手段が目的化することはよくあること→なんでやってるんだっけ？と迷い始めたら、「そもそも」「原点」に立ち返る機会をもつ。

◆「大きな目的」と、実現可能な「小さな一歩」

- 一緒にやってくれる仲間や、賛同してくれる人を見つける。
- そもそも地域づくりに正解はない。やっていること自体が正解であると考えてる。
- 地域の人は実は課題を言いづらい。ヨソ者だから課題として取り上げることができる側面もある。

- 目の前の課題から取り組んでいく。課題を細分化して、できるところを見つける。
- 雑談にこそ本質がある。ロジャーズの「積極的傾聴」＝共感的理解、無条件の肯定的関心、自己一致。

◆ポイントは「つながり」「コミュニティ」

- 役割や立場は違っていても目的は同じ。要望ではなく、できることを持ち寄るという姿勢を互いに持ち寄れば協働は実現する。
- 地域内のつながり、「実はキーマン」という人の存在。見える化しないと持続可能ではない。
- 常日頃から情報を仕入れておくこと。
- 教えてもらうだけでなく、自分からも情報を提供・情報発信する。

質疑応答（一部抜粋）

Q. 「みんなで、いっしょに活動する風土」＝郷土愛を高めるには？

【栗屋氏】（以下【栗】）答えは1つではないと思うが、人と人との関わり、つながりが子どもたちの郷土愛を育むのではないかな。

【猪田氏】（以下【猪】）子どもたちが地域の中で安心安全に暮らせること、家族が子どもに「帰ってこい」と言える地域であること。

Q. モビリティの運転者や介添人を職業として、若い人たちを地域に呼びもどすことはできないか？

【猪】若者の雇用は大切だが、モビリティだけを仕事にするのは難しい。できることを増やす、空いた時間で新しい役割を持っていく柔軟性を若者は持っている。地域おこし協力隊の制度を利用するなど。

Q. 中山間地域におけるコミュニティ形成に向けて、定住人口と交流人口の役割について考えを伺いたい。

【栗】地域の方は、定住人口を増やしたいが難しいという現実を受け止めている。イベントを通じて交流人口が増えると「こんなところがあるなんて！」と感動されることも。その中で、住みたいという人が出てきた。重要なのは活動人口。人口が多くても地域活動に関心がない人が多い地域は元気とは言えない。活動人口が多い地域が元気な地域と言える。

【猪】交流人口というと、一般的にはまったく知らない人たちがやってくるイメージだが、近くに住んでいる家族、孫世代、親戚なども重要な交流人口。ルーツを探る、地縁、縁がある中での交流で地域は活性化する。

Q. 人口減少は免れない中で、笑顔あふれるローカルで暮らすための今後の野望（展望）は？

【猪】インターネットや動画の活用をはじめとした、多様なつながり・コミュニティづくりが図られていることに期待している。未来は明るいと思っている。ヒト・モノ・ココロが動けば、必ず未来が動く。

【栗】ワクワクすること、楽しみながら取り組むこと。ワクワクするという動機が必要。里山での初イベントを終えた地域の方が「ワシらでもこれだけのことができるんじやの」と仰った。小さな成功体験を重ねていく、役割をつくる、活動する場をつくり、参加し続けてもらう。

